地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（室蘭地域）

●「漁港整備に向けた取り組み」（継続事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け	**【地域の将来像】** 漁獲から陸揚げ、出荷に至る水産物の安定供給基盤の確保 防波堤・係留施設の機能確保・強化 **【主な取組】** 短期：衛生管理体制及び就労環境改善に向けた屋根付き岸壁等衛生管理施設の整備 市・漁協による、国・北海道への漁港施設改良予算要望、および国・北海道による漁港施設改良予算の確保 中・長期：ICT 技術を活用した荷受け～セリ・入札～荷渡し業務のデジタル化 漁港・港湾施設の計画的な改良
取組内容に関連する実施の現状と課題	現状：追直漁港において衛生管理施設（屋根施設）を整備中 イタンキ漁港において就労環境改善施設（屋根施設）を整備中 課題：衛生管理体制の確立及び就労環境の改善 老朽化した漁港施設の更新
取組による効果（数値目標）	作業時間の削減 人件費の削減

取組場所

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制	【追直漁港】 国直轄工事により岸壁の改良や泊地の浚渫が実施され、令和 8 年 2 月 13 日には 3 棟目の屋根施設が完成予定。 【イタンキ漁港】 北海道の改良工事により、2 棟目の屋根施設が整備中。 【室蘭港内の絵鞆漁港区および崎守漁港区】 市（港湾管理者）が老朽化した施設について必要に応じた修繕を実施。 【市・漁協】 全国漁港漁場大会の出席や現地調整会議、現地連絡会議における国・北海道への漁港整備要望のほか首長による省庁や国・道議会議員への陳情活動を実施。

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価	【追直漁港】 国直轄による特定漁港漁場整備事業計画のとおり整備が進められている。 【イタンキ漁港】 北海道による水産生産基盤整備事業計画のとおり漁港整備が進められている。 【室蘭港内の絵鞆漁港区および崎守漁港区】 市（港湾管理者）により必要に応じた修繕が実施されている。
反省点	特になし。

（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点	衛生管理体制の確立及び就労環境の改善 老朽化した漁港施設の更新
取組の実施に必要なもの	市・漁協による国・北海道への漁港整備に係る要望活動を行っていく。 国・北海道・市による漁港（区）整備に係る予算の確保が必要。

関連資料

【取組の様子】

追直漁港において 3 棟目の屋根施設が完成間近

イタンキ漁港において屋根施設が整備中

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（室蘭地域）

●「漁港内の静穏水域を活用した養殖試験および新たな海業の検討」（継続・新規事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の将来像】 漁港内の静穏水域の創出による養殖・蓄養 海業・養殖業と水産加工業が連携した 6 次産業化 【主な取組】 短期：中間育成、養殖、蓄養を行うための静穏水域の検討、海面養殖対象水産物の検討 漁港用地を活用した海業・養殖業・水産加工業が一体となった荷捌き・加工施設等の建設計画立案 中・長期：養殖設備・機材と種苗の調達、ICT 技術導入による生産効率化、海面養殖の事業化 荷捌き・加工施設等の建設運営	取組場所
取組内容に関連する実施の現状と課題	現状：漁港水域内でコンブ・ワカメ養殖を試験的に実施 課題：養殖生産体制の構築 漁家収入の安定 都市の強みを生かした海業振興による漁村地域の活性化	
取組による効果（数値目標）	海面養殖対象水産物数（2 品目） 6 次産業化品目数（5 品目）	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	【コンブ・ワカメ養殖試験】 漁協では、藻場が将来的に喪失される懸念を解消し引き続き良好な藻場を維持するため、令和 5 年度から青年部が主体となりコンブ・ワカメの養殖試験を開始。事業の実施にあたっては、公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会と室蘭市の補助事業を活用している。 追直漁港の海域（第 2 港区および M ランド静穏域）において養殖桁を設置。ウニ殻肥料を適用した養殖ロープへ種苗糸を挟み込み垂下。 令和 6 年から養殖を開始したワカメは令和 7 年 3 月に水揚・出荷。天然ワカメと比較し品質が良く、市場価格よりも高値で取引された。 同じく令和 6 年から養殖を開始したコンブは令和 7 年 7 月に水揚し乾燥させたのち、12 月に出荷。高海水温の影響により品質が低く安値で取引された。 【その他海業】 追直漁港の第一線用地である旧室蘭市公設地方卸売市場追直卸売場の解体跡地、及び漁港内静穏水域については、漁協が実施している国の海業取組促進事業を活用した実施可能な海業の取組の検討に、国・北海道・市が協力して取り組んでいる。	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
数値目標の達成度評価	漁協が国の海業取組促進事業を活用し実施可能な海業の取組を検討中。	
反省点	高海水温による養殖コンブがロープからの脱落やコケムシの付着を避けるため、水揚げ時期を早めたものの生育が十分ではなく身の薄い状態での出荷となった。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	コンブ養殖について、高海水温の影響を抑え商品としての品質を保つことが困難なため、出荷用の養殖は令和 7 年までとし、令和 8 年からは藻場造成のための母藻としての養殖のみを行うこととした。	
取組の実施に必要なもの	高海水温においても商品としての品質を保てるコンブ・ワカメの養殖技術の確立については、先進地の事例研究や、全国豊かな海づくり推進協会、水産技術普及指導所、栽培水産試験場等からのアドバイスが必要。 海業への取組方針の決定後は、国・北海道による漁港整備に向けた予算要望や漁協、市、民間企業による実施体制の確立が必要。	

関連資料

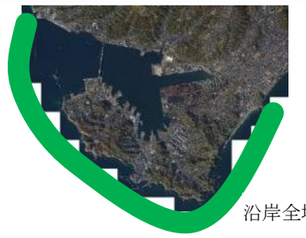
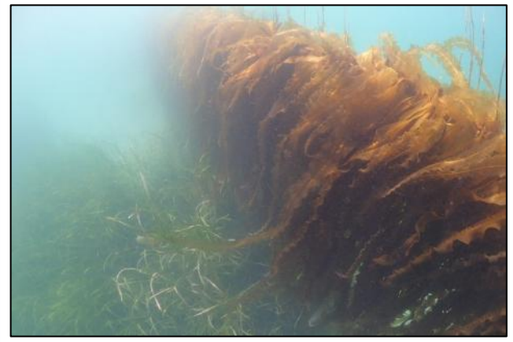
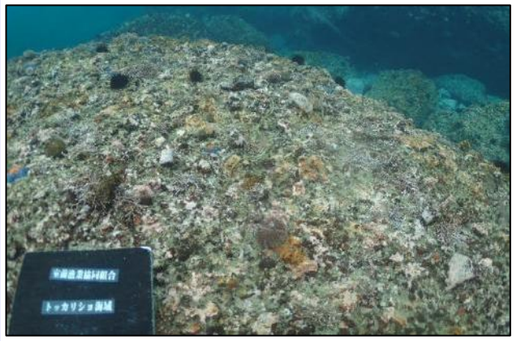
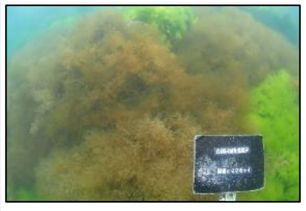
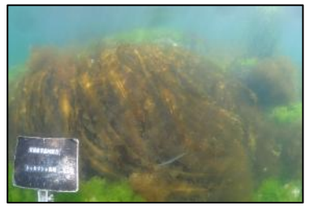
【取組の様子】

養殖コンブの水揚げ風景

令和 6 年度に解体した旧室蘭市公設地方卸売市場追直卸売場。現在は更地になっている。

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（室蘭地域）

●「藻場造成・カーボンニュートラルの推進」（継続事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）			関連資料
地域 MV における取組の位置付け	【地域の将来像】 環境・生態系保全とグリーン社会の構築 【主な取組】 短期：藻場造成事業の実施 中・長期：藻場造成事業の実施、藻場造成に伴う CO2 吸収効果の算出、クレジット化の検討、藻場のモニタリング	取組場所  沿岸全域	【取組の様子】  養殖し海中へ投入したコンブ母藻
取組内容に関連する実施の現状と課題	現状：藻場の減少が進行 課題：藻場の回復		
取組による効果（数値目標）	藻場面積（126,000 ㎡増） ※トッカリショ 400m×240m ※栄町 300m×100m		
（2）取組内容・実施体制（Do）			
取組内容、方法、手順、実施体制	漁協では、藻場が将来的に喪失される懸念を解消し、引き続き良好な藻場を維持するため令和 5 年度から藻場造成事業を開始。事業の実施にあたっては、公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会と室蘭市の補助事業を活用している。 【藻場造成】 追直漁港周辺海域において藻場食害の主な原因であるキタムラサキウニを採捕し密度管理を実施。また、養殖により育成したコンブの母藻は、コンブの種の供給を目的に海中へ投入。これらの取り組みを実施した海域では、何も生えていなかった岩にコンブやアオサ、スガモなどの海藻類の繁茂が確認された。 令和 6 年まで青年部およびダイバーが担っていたキタムラサキウニの採捕は、令和 7 年からは採介藻漁業を行う全漁業者でも実施し、令和 7 年 6 月から 11 月にかけて計 6 回の活動を実施した。 同じく青年部が追直漁港で実施していた海域へ投入するコンブ母海の養殖についても、令和 7 年末からは採介藻漁業を行う漁業者の協力を得てイタンキ漁港や室蘭港でも開始。養殖するコンブは、マコンブ・ミツイシコンブ・ヤヤンコンブの 3 種類。養殖したコンブ母藻は令和 8 年 3 月以降に室蘭沿岸の全海域への投入を予定しており、投入量は前年の 4 倍以上となる見込み。なお、使用したコンブ種苗のうち、マコンブとミツイシコンブは戸井漁協から購入。ヤヤンコンブは漁協が栽培水試と協力して生産したもの。 【ブルーカーボン・クレジット】 追直漁港周辺海域においてドローンで空撮した画像の解析を他機関へ依頼中。解析結果は令和 8 年 2 月に得られる見込み。		 取り組み以前の海底の様子 取り組み後の海底の様子 写真右）アオサ 写真下）アオサ 写真右下）コンブ  
（3）効果項目に対する評価（Check）			
数値目標の達成度評価	藻場造成に関しては隙間がないほど海藻を確認。海藻がなかった岩場にも大量のコンブとスガモの群生を確認。		
反省点	海藻類が再生した原因は、コンブ母藻の投入によるものなのか、キタムラサキウニを採捕したことによるものなのか検証ができていない。		
（4）取組の改善措置（Action）			
取組内容の改善点	海藻類が再生する要因を検証するため、キタムラサキウニを完全に採捕した区画と採捕していない区画を設け、コンブ母藻投入による影響の検証を行いたい。		
取組の実施に必要なもの	先進地の事例研究や、全国豊かな海づくり推進協会・水産技術普及指導所・栽培水産試験場等からのアドバイス。		

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（室蘭地域）

●「魚食普及に向けた取り組み」（新規事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け

【地域の将来像】
漁村地域の総合的な振興

【主な取組】
短期：SNS による情報発信、EC 販売やふるさと納税を活用した販売促進
中・長期：学校給食や各種イベントを通した魚食の習慣化、室蘭産道内産魚介類の魚食への親しみを深める

取組場所

取組内容に関連する実施の現状と課題

現状：漁協が市内外イベントへ出店し室蘭水産物を PR
漁協による直売会の不定期開催

課題：室蘭産魚介類の認知度向上

取組による効果（数値目標）

（数値目標の設定なし）

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制

【SNS】
市の広報紙「広報むろらん 6 月号」にて、室蘭の漁業や漁獲物等について見開き 2 ページの特集記事で紹介した。
市公式 Instagram にて、定期的に旬の食材を紹介している。
漁協公式による SNS（X、FB 等）にて、漁業の様子や漁獲物、旬の情報等を定期的に紹介している。

【EC 販売】
漁協公式オンラインショップにて、ホタテやアワビ等、旬の魚介類を販売した。

【ふるさと納税】
漁協、室蘭魚市場（卸会社）の協力を得て、アワビとキタムラサキウニをふるさと納税の返礼品に登録した。
ふるさと納税による寄付件数と納税額（R8.1.7 現在）
アワビ：97 件・2,348,000 円
キタムラサキウニ：38 件・1,174,000 円

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価

（数値目標の設定なし）

反省点

（数値目標の設定なし）

（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点

室蘭産魚介類の認知度向上、および魚食普及を目的とした、SNS による効果的な発信内容や投稿頻度の検討。
ふるさと納税における水産物の登録品目数の増加。

取組の実施に必要なもの

SNS におけるフォロワー数・閲覧数の多い投稿を参考とした情報発信。
ふるさと納税の返礼品として登録可能な水産物、協力可能な事業者の開拓。
漁協女性部等との協力による新たな魚食普及に向けた取組の検討。

関連資料

【取組の様子】

令和 7 年 6 月より、室蘭市公式 Instagram により室蘭産魚介類の紹介をスタート

広報むろらん令和 7 年 6 月号の特集記事

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（室蘭地域）

●「新規漁業就業者の確保」（新規事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の将来像】 新規漁業就業者の確保 【主な取組】 短期：漁業就業支援フェアへの参加、新規漁業就業者の漁業協同組合加入の支援 中・長期：研修を終えた新規漁業就業者の独立支援	取組場所
取組内容に関連する実施の現状と課題	現状：漁業者の減少・高齢化の進行 新規漁業就業者の受け入れを開始 課題：新規漁業就業者の受け入れと育成を担う意識の醸成	
取組による効果（数値目標）	新規漁業就業者の確保（10 人）	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	令和７年度より、漁協・市・道で構成する室蘭地域漁業就業者対策協議会に対し、漁協と市が負担金を拠出し、新規漁業就業者への家賃補助や資格取得補助を実施。 令和７年は、漁業就業支援フェアでマッチングした３名がホタテ養殖漁業の研修に従事。うち２名については、北海道漁業就業支援協議会の経営体育成総合支援事業のうち長期研修支援事業を活用。現在２名が研修中。 令和８年２月には同じくホタテ養殖漁業に１名増え３名が研修に従事する見込み。 【漁業就業支援フェア】 令和７年２・７月　北海道漁業就業支援フェアに参加	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
数値目標の達成度評価	令和６年度までは金銭的な支援策を持っておらず、漁業就業支援フェアに参加しても当地域のブースに訪れる方が少なかったものの、令和７年度よりマッチングする研修生が急増したのは、令和 7 年度より実施した家賃補助や資格取得補助といった支援策による効果と評価している。	
反省点	標準的な研修期間は３年間であるが、研修に従事した３名のうち１名がホタテ養殖漁業に馴染まず、早期に研修を辞退した。	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	研修生を受け入れる前に本人と良くコミュニケーションを図り適正を判断する。	
取組の実施に必要なもの	家賃補助及び資格取得補助の継続。 新規漁業就業者の受け入れと育成を担う意識の醸成。	

関連資料

【取組の様子】

ホタテ養殖漁業に従事する研修生の研修風景

令和 7 年 7 月に参加した北海道漁業就業支援フェアでの北山漁業部（室蘭漁協所属のホタテ養殖漁業者）のブース